

令和7年度 学校自己評価重点目標シート

学校教育目標	1 進んで学習する生徒 2 明るくやさしい生徒 3 体を鍛える生徒
目指す学校像	生徒一人一人を大切に信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価					学校関係者評価	
領域	年度目標		年度評価		学校関係者からの意見・要望・評価等	
	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度		次年度への課題と改善策
組織運営	<p>○目指す学校像を共有ビジョンとし、教職員一人一人が「生徒一人一人を大切に指導・支援の在り方」を認識し、確実な実践を行うことにより、組織としての指導体制の確立を図る。</p> <p>【努力点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標の具現化 学級経営の充実 	<p>・年度当初における学校経営方針の明確化と共有ビジョンの確認</p> <p>・教頭・教務主任と綿密な情報共有を図り、学校運営上の諸課題解決や予見される組織運営上の問題への対処を迅速に行う。</p> <p>・各分掌部会で出された情報等を、学年間で円滑に共有する環境を昨年度以上に創出するとともに、全教職員で共有する体制を構築する。</p>	<p>○目指す学校像について、教頭から教職員に対する指示伝達事項の中で、折に触れて「一人一人を大切に」ポイントを確認していたことで、教職員の認識も高まっている。</p> <p>▼管理職間及び各主任との情報共有は綿密な連携のもとであったが、分掌間での情報共有と共通行動の点においては、齟齬が生じる場面もあり、改善の余地がある。</p> <p>▼年度途中での人事異動や育児休業取得及び年度途中での退職者等で校内人事を大きく変更せざるを得ず、これによって業務負担に偏りが生じ、中々改善できる状況にならなかった。</p>	B	<p>・目指す学校像の具現化について、人事評価と絡めて、各教職員がどのような目標と方策を設定し、具体的な手だてを講じるのかについて、定期的に確認していく必要がある。</p>	<p>・東中学校が、地域と連携した取組に力を入れていることは素晴らしく、今後も継続していくことを期待している。</p> <p>・学校評価の中で、特に学習面に対して保護者の受け止めの結果が芳しくないとの説明があったが、授業のあり方及び指導方法などを見直し、丁寧な指導と保護者への説明責任は必要であるので、引き続き、指導改善等に取り組んでもらいたい。</p> <p>・保護者アンケート結果において、ほぼ全ての項目で前年度より数値が上昇しているのは、この一年間の取組の成果であると受け止めている。詳細に見ていくと、項目間の差があり、説明にもあったが、学校での実態及び教職員の意識と保護者の受け止めの間での乖離がうかがえるような結果もみられている。この点に着目して、次年度以降の学校経営の重点を考慮していく必要があると思う。</p> <p>・保護者アンケート結果の、4段階評価における平均値が「3.3～3.5」などの結果はとても高い値である。それだけ評価されていると認識してもよい。ただし、学校として改善の余地があると思われる取組等は、次年度以降の改善に期待したい。</p>
教育課程	<p>○生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための「わかる授業」の充実に向けて、学習活動における指導の工夫や、ICTの効果的な活用を具体的実践を通して具現化していく。</p> <p>○生徒の自主的活動の場を確保し、主体的に取り組む意欲と態度を育成する。</p> <p>【努力点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導・健康教育・教育相談の充実 生徒会活動の活性化 各教科及び領域等の指導の重点の具現化 	<p>・校内研修において、今年度の研究の方向性の確認と具体的実践における振り返りと改善への取組を確実に実施する。</p> <p>・生徒指導部会や教育相談部会とともに、校務分掌における生徒の活動状況等の定期的な現状確認と課題の洗い出し、対応策のとりまとめと実施を徹底する。</p>	<p>○今年度から新たな研究主題を設定し、3部会による研究推進体制で調査研究を進めてきた。外部指導者を招聘し、研究協議会において研究内容を深めることができた。特に、ICT活用にはDXルームでの研修と活用促進がみられている。</p> <p>○教育相談部会において、新たな校内支援センター（e-sta）との連携構築は円滑にできるとともに、不登校傾向生徒をe-staに繋げる意識も、教職員の中で共通理解が図ることができた。</p> <p>▼生徒会活動等、生徒が自主的に活動する場を教職員が意図的に設定し、生徒に様々な体験を積ませることを、各分掌間での共通認識したが、その効果は判然としていない。</p>	B	<p>・校内研修の在り方を一部見直し、学校課題研修2年目としての充実した校内研修の充実を図る。</p> <p>・様々な角度から現行の教育課程の見直しを図り、余剰時間の創出、効果的な行事運営等に取り組む。</p> <p>・行事や生徒会活動における生徒主体の活動時間の拡大を図る。</p>	
開かれた学校づくり	<p>○コミュニティスクールを核とした地域連携を更に推進し、教職員の負担軽減とのバランスに考慮した学校地域協働活動の活性化を目指す。</p> <p>○積極的な情報発信による学校教育活動の開示性を高める。</p> <p>【努力点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動の積極的な発信 地域との協働行事の充実 	<p>・学校運営協議会委員との意見交換を踏まえ、今後のコミュニティスクールの在り方について3校での合意形成を図る。</p> <p>・HP等を活用し、学校の教育活動の情報発信を積極的に行う。</p> <p>・3校合同若しくは小中学校連携としての取組、行事等を積極的に行う。</p>	<p>○3校での合同研修会（地域学校保健会及びLGBTQ研修会等）を開催するとともに、児童生徒間の委員会活動の連携なども実施することができた。</p> <p>○HPの更新回数及び内容の精査を行い、担当職員の意識改革とともに、情報発信にかかる学校公開の意識を高めることができた。</p> <p>▼今年度は、教職員間の研修という、新たな連携の形をとることができたが、児童・生徒間の交流、教職員間の交流を促進していくことにおいて不足がみられている。</p>	B	<p>・教職員間の交流（授業参観等）を意図的に設定（学校公開週間などを活用）し、加えて、児童会活動と生徒会活動の共同実施の機会を確保し、児童・生徒間の交流を促進する。</p>	
教職員の資質向上	<p>○東中学校における「働き方改革」推進のために、業務量の削減とワークライフバランスの取り方を改善していく。</p> <p>○教職員各自のキャリア形成の意識を高め、自己の課題の明確化と今後の自己研鑽への意欲を喚起する。</p> <p>【努力点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修活動の活性化 	<p>・業務の棚卸を実施するとともに、業務量の平準化の実現、負担の多い場合の対応策などを準備し負担軽減を図る。</p> <p>・定時退勤やふれあいデーの実施、会議の効率化などを行う。</p> <p>・経験年数に応じた教員グループごとに、適宜面談を行い、指導方法の振り返りと自身が抱える課題等への助言を行う。</p>	<p>○時間外在校等時間削減を強化月間において教職員で確認し合う取組等により、昨年度より月45時間超となる教職員数は減少した。</p> <p>○定期テストの自動採点システムを導入したことにより、採点業務時間の短縮化と、テスト結果分析及び個人へのフィードバックなどの業務を効率よく実施できるよう改善した。</p> <p>○経験年数の少ない教員への、管理職等による授業参観、個別の指導・助言などにより、教員自身が自己の指導方法の見直しを図る姿勢が育ってきた。</p>	A	<p>・定期テスト等の自動採点システムの本格導入、諸会議等のデータ化などにより、教職員の負担軽減と時間外在校等時間の削減を更に促進する。</p> <p>・校内におけるOJT環境を、人材育成の観点から見直し、管理職による支援・指導を徹底する。</p>	
施設・設備等の管理	<p>○校内環境の整備と定期的な安全点検等を通して、迅速な対応による施設事故を防ぐ。</p> <p>○予算執行状況を管理職が定期的に把握することを通して、効率且つ効果的な予算を執行する。</p> <p>【努力点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的な予算執行 迅速な修繕の実施と環境整備の充実 	<p>・定期的実施する安全点検結果を踏まえた修繕の確実な実施と、自助努力では解決困難な箇所教育委員会との連携による修繕を確実に実施する。</p> <p>・予算執行状況において、偏りや不適切な執行がないように、事務主幹と管理職が状況を把握し、適正な執行を徹底する。</p>	<p>▼今年度は、生徒指導対応の微増に伴い、施設の損壊（ガラス破損）事案が昨年度以上に増加した。破損直後に改修することはできたが、管理面だけでなく、指導面においても施設設備の使用について徹底していく必要を感じた。</p> <p>○安全点検は、教職員事故未然防止の観点からの取組と相まって、点検回数の頻度及び点検教職員数も増え、これにより、以前にもまして、施設設備の修繕及び使用上の配慮など、職員意識が高まったのは、前述の対応の副産物である。</p>	B	<p>・校内施設設備点検が定常化していることを踏まえ、各教職員の修繕意識、施設設備の安全な利用と維持向上の認識力を高める取組を意図的に設定する。</p>	